

(様式1) 学校評価 <評価:A(1・2) B(3) C(4・5) 数字はアンケート結果を加味する場合>

項目	重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題 (○:今年度の具体策)	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
学 校	教育課程	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	○学校行事について、反省や改善点を記入し、全職員で共通理解を図りPDCAサイクルを実践する。 →毎月行事の反省を実施し、まとめたものが回覧されて共通理解が図られた。この反省や改善点が次年度生かされればよいと思われる。 ○見学や体験等から学ぶ学習の機会を多く取り入れ、学習内容を習得する。 →コロナ禍でありながら、地域の見学や宿泊学習、修学旅行、運動会等多くの行事を実施することができた。また、食育や福祉では外部の講師を呼んで実施できた。 ○授業時数の確保と学習内容の完全実施を行う。 →時数の確保と学習内容の実施はできたが、学習内容の質的なものに関しては課題が残る。行事が連続的なときがあって落ち着いて学習に取り組めない時期があった。	A	☆大きい行事は、昨年度の反省と計画を一緒にして会議に出す。 ☆コロナ禍においても、内容を工夫して行事等を実施していくようにする。 ☆教育課程を組む上で、連続的に行事がつながらないようにすることと、落ち着いて学習ができる学習週間を確実にとるように計画する。	・今後はPDCAサイクルからPDRサイクルが主流になると思います。 P→Prep 準備 D→Do 実行 R→Review 評価 レスポンス向上になるかと思いました。 ・コロナ禍でありながら見学や体験等ができたことはよかった。是非とも工夫して実施してほしい。
	組織運営	適材適所 研修の充実 働き方改革	○協働体制で校内研修を進めることができる。 →学習指導主任、児童指導主事、特別支援コーディネータが中心になり職員全員が研修等を進めることができた。また、養護教諭を中心にコロナ対策、環境担当による花壇・農園の企画・運営が工夫して行われた。 ○校内研修を通して、ICTを工夫して活用することができる。 →学校課題を推進するに当たって、研究授業内及び職員による研究協議でICT(まなびPC)を積極的に活用した。これにより、職員のICTの授業への活用が増えてきた。しかし、使い方が分かって、熟知してないために、授業中、円滑に使用することができない。 ○教職員評価制度を確認し、自己の資質向上に努める。 →職員が「能力・行動自己評価シート」の項目を確認し、「目標・成果自己評価シート」を管理職のアドバイスのもとで作成する。管理職との面談では、個々の職員の良さを認め、励ます機会となった。	B	☆担当職員の計画・運営だけでなく、中堅と若手をベアーにして校務内容の伝達を常時行っていく。これによって若手教員の育成を行う。 ☆①ICT関係の外部講師を招き、研修を行う。 ☆②ICT(まなびPC)を使った授業研修を行うとともに、実践記録を残し、職員間の情報交換を行う。 ☆「能力・行動自己評価シート」、「目標・成果自己評価シート」を週案に入れておき、常に振り返ることができるようにする。また、管理職は職員の資質向上を促す助言を日頃から行う。	・ICT教育も必要であるが、何でもパソコンで検索できてしまい、「本を見て調べる」「考えてみる」「聞いてみる」等が少なくならないよう、ITとアナログが共有して教育していただけたらと思います。

校運営	環境整備	○校内外の整理整頓、環境整備に努める。 ◇児童の学習環境の整備と学校設備等の整理に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	○教材備品等の整理整頓を行う。 →夏休みに教材室や理科準備室に置いてあった、古い教材・教具を廃棄した。 ○学校緑化環境の充実を図る。 →年間計画に従い、花壇・農園の整備を行う。 毎週水曜日の朝の時間に「グリーンタイム」として全校生による除草作業を行うことで、児童の環境への意識は高くなった。 必要に応じて除草剤を散布することで、柵の木の害虫や校庭の草などが押さえられた。 ○コンピュータ内のファイル・ホルダーの整理を行う。 →不必要なファイル・ホルダーの削除を行った。	A	☆安全点検を複数で行い、改修・廃棄を進める。 ☆長期休業中を利用して、定期的に理科準備室、教材室、倉庫等の整理整頓を行う。必要ない物は積極的に廃棄する。 ☆シルバー人材を活用して、薬剤散布を行う。 ☆地域のボランティアと児童が協力して除草を行う場を設ける。 ☆ホルダーの区切り方を校務分掌で考えて作成する。 ☆諸計画の文書データを個人で持たないで校務文書のホルダーに入れる。	・不要な物が多くあると思いますので、ある程度ピックアップして時間がある保護者を募り、ボランティアとして手伝ってもらうのはどうでしょうか。
	地域連携	○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇学校から情報発信と情報収集を行い地域社会と好ましい関係をつくる。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	○学年だより、学校だより、ホームページ等で情報を発信する。 →学校行事等の写真を継続的にホームページに掲載した。しかし、一部の保護者からは、毎日更新してほしいという要望もある。 学年だより、学校だよりを定期的に発行することができた。学校だよりは地域にも配布した。 ○地域ボランティア、シルバー人材と連携を図り、学校環境整備に努める。 →シルバー人材と連絡を取り、除草剤や害虫駆除剤の散布を行う。また、ボランティアの方には農園を耕してもらうことやこまめに除草剤の散布を行ってもらった。 環境整備以外も、校内マラソン大会の補助員、クラブ活動の講師として地域ボランティアに協力してもらった。 ○地域施設等を積極的に活用する。 →海浜自然の家、なす高原自然の家、こども科学館をなどの県の施設の利用、市内の消防署、警察署訪問など、新型コロナウイルス感染症対策をして実施した。	B	☆ホームページに行事の写真以外に、掲載するものを増やしていく。 ☆年間計画を作り、計画的に環境整備を行う。校内の人材バンクを生かし、環境整備以外でも地域と連携していく。 ☆実施内容を検討し、コロナ禍でも継続的に実施できる内容に行事を企画していく。また、次年度は施設だけでなく、地域のボランティアとの連携を多くとっていく。	・ホームページのアップもほどほどで良いと思います。先生方の児童と関わる業務優先で、主要行事や学年便りに掲載しているものをアップすれば十分かと思います。 ・地域のボランティアをもっと生かして、地域密着型にしてはどうか。 ・月1回の学校便りが、カラー版で地域に配布され、学校の様子が分かってうれしい。 ・学校支援ボランティア募集により、登録して下さった方々、ボランティアに協力して下さった方々に感謝します。地域と共にある学校づくりの第一歩が踏み出せたかと思っています。 ・まだまだ終息の見えない異常事態の中ですが、感染拡大予防の対策を十分にした上で、地域とつながりを持ち、子ども達の育成の支援ができたと思います。

知の教育	学習指導・各教科等	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇自ら学ぼうとする意欲を育てる学習指導の工夫をする。	主体的・対話的・深い学び	○「めあて」「まとめ」「振り返り」を取り入れて基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。 →「めあて」「まとめ」「振り返り」のカードを有効に活用して「わかる授業」を進めることができた。児童のアンケートで「先生は、勉強で分からないことがあるとていねいに教えてくれる」に対し、全員が肯定的に答えている。 ○話し合い活動、発表、作文等を取り入れて、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫を行う。 →コロナ禍だったので、対面で十分なグループの話し合い活動ができなかった。意見交換などは、まなびPCの発表ノートやジャクボード等を活用して行えたことはよかった。 ○児童の能力を理解し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 →児童のアンケート結果からは、「分からないところはていねいに教えてくれる」に対して全員が肯定的であった。このことから分かるように、先生方は個に応じて対応することができていた。	A	☆学習内容のさらなる定着を図るために振り替えりとまとめ方を工夫する。 ☆「話し合い活動のマニュアル」の見直しをする。話し合い活動に、まなびPCを有効に活用する方法を研修する。 ☆TTの先生との連携をさらに充実させる。担任だけが問題を抱えるのではなく、情報を共有して、組織的に対応できる体制作りを行う。	・先生方の細かな教えにより、1人1人に対して対応して頂いており、アンケートに反映されていると思います。
	情報教育	○一人一台の情報端末の有効活用に努める。 ◇目的に応じたタブレット活用の工夫を行う。	プログラミング教育 情報活用能力	○必要に応じてタブレットを活用して授業を展開することができる。 →どの学年もまなびPCを授業に取り入れ活用することができた。まだ、先生方が学習用ソフトウェアが十分使いこなせていないので研修が必要である。 ○タブレットを活用してプログラミング教育ができる。 →まなびPCを使ったプログラミング教育は行うことはできていない。 ○家庭において有効なタブレット活用法を工夫する。 →家庭におけるオンライン授業のやり方は今年度確認することができた。また、非常時における、希望者へのオンライン授業も実施することができた。しかし、授業の様子の配信までなので、今後は、本格的な授業の進め方の研修が必要である。	B	☆授業に中での有効的なまなびPCの使い方の研修を行う。また、先生方での情報交換を積極的に行う。 ☆情報教育の年計を見直しをし、まなびPCを活用可能な単元を洗い出して実践する。そして、記録として残し改善していく。 ☆本格的なオンライン授業に対応するために、定期的にまなびPCを持ち帰らせ、実践的なオンライン授業の研修を行う。	・タブレット教育は、はじまったばかりですが、持っている喜びと、操作できる楽しみができて、少しずつ使用方法の幅を広げていけば良いと思います。子どもはとても喜んでいきます。 ・導入されたばかりなので、これから研修を深めてほしい。

	国際理解教育	○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。 ◇身近な英語に親しみながら、コミュニケーションを図る資質・能力を育てる。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	○ALTとの英語を通して、日本語との違いや英語のおもしろさに気づかせる。 →普段のALTとの英語の授業やALT交流会を通して英語のおもしろさに気づくことができた。 ○英語の聞き取り、会話を通して、コミュニケーション活動の楽しさを実感させる。 →普段のALTとの授業、ニュージーランドの高校生とのZOOMでの交流、休み時間のALTとのふれあいを通して、コミュニケーション活動の楽しさを実感することができた。 ○英語の理解と、言語能力の向上を図る。 →児童は感覚的には、英語をとらえることができているが、理解までは至っていない。この具体策そのものを見直す必要がある。	A	☆さらに充実させるために、ALTとの事前打ち合わせをする時間を確保する。 ☆まなびPCを活用して、オンラインによる交流を増やし、コミュニケーション能力を高めさせる。 ☆英語専科の教員と連携して、具体的な目標の確認を行う。	・まずは、外国の方とふれあいとコミュニケーションが取れて楽しいで、良いと思います。英語を理解させるには、日常教育の中で、毎日学習しなければ、身につかないので、朝の会・帰りの会で、"あいさつ" "年月日" "曜日" "時間"等を英語で言ってみてはどうでしょうか。
心の教	児童・生徒指導	○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。 ◇個々の児童指導能力を目だして、学業指導の充実を図る。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	○基本的な生活習慣(ABC/R運動)の定着を図る。 →コロナ禍でありながら、徐々に元気なあいさつができるようになってきた。時間を見て行動する児童が増えている。 ○学級を学びに向かう集団に高めるために、学級指導経営の方針に基づいた指導を実践する。 →Q-U検査を年2回、児童への学習と生活のアンケートを2回実施して、現状を把握し、職員で話し合い、改善してきた。姿勢を良くして、先生の話聞くことに課題が残る。 ○発達段階に応じた規範意識を高めさせる。 →「きまり時間を守って生活しているか」という児童のアンケートでは、9割以上は守っている意識がある。その中で、大変よく守っているのは6割ぐらいである。発達段階において、教師側の関わり方ができている。児童のアンケートの中の「先生は間違ったことをしたときは、きちんと注意してくれる」に対して全児童があてはまると答えている。	B	☆次年度もあいさつ週間を設けて啓発活動を児童自ら行うように計画する。 児童のアンケートで、授業中に話を聞くことと姿勢が良くないと反省があるので、教師側で集中力を促す。 ☆落ち着いて席に座り、先生の話聞くようにするために、教師の発問の仕方、教具の使い方(視聴覚機器、まなびPC等)を工夫する。教材研究の時間を確保する。 ☆急には規範意識は崩れていかない。教師側の児童への関わり方の現状を維持していく。基本的な生活習慣の徹底を組織的に取り組んでいく。	・様々な子供達がいるので、柔軟な対応をよろしくお願いいたします。発達障害の要素を持つ児童もいるかもしれないので。 ・家庭と連携して取り組んでほしい。 ・「毎日学校に登校しているか。」のアンケートに対する回答が気になりました。コロナ禍という異常事態で長期間にわたり、子ども達に不安やストレスが蓄積され、意欲の低下につながっているのではと心配します。 ・子ども同士や先生とのやり取りも、マスクをしていることから表情が読み取りづらく、不安につながると感じます。 ・子ども達の心に寄り添い、今までより、ひと言多く声をかける等配慮して、全員が毎日、楽しく学校へ登校することを願います。

特別支援教育	○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。 ◇個々の児童の特性の理解とそれに応じた具体的な支援の充実を図る。	インクルーシブユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	○校内研修を通して、発達障害のある児童を共通理解し、全校体制で支援する。 →内地留学の報告会をかねて、発達障害をもった児童への対応の仕方について研修を行った。特に、通常学級にいるグレーゾーンに対する児童の対応の仕方について共通理解した。 ○特別支援コーディネーターと連携し、個別の指導計画を作成したりして組織的に対応する。 →各学年個別の指導計画、及び個別の教育支援計画を必要な児童に対して作成して職員に周知し、全校体制で支援していくことを確認することができた。 ○特別支援学級と通常学級の児童との交流や共同学習を充実させる。 →交流や共同学習を実施することができた。その際、特別支援学級の児童が通常学級に入りづらい雰囲気もなく、通常学級の児童も抵抗なく受け入れることができていた。	A ☆学担会、児童指導打ち合わせ等で情報を共有し、全校体制で対応する。 ☆個別の指導計画、個別の教育支援計画を1学期中に作成し、校内の支援体制を整えて対応する。 ☆現在の交流や共同学習を維持していくように学校全体で取り組んでいく。	・低学年から通級することにより、抵抗なく友達がつくれるようになると思います。 ・先生方も大変ですが、グレーゾーンの子供たちを取りこぼさないでください。
--------	--	---	---	---	---

命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇健康生活に関する実態を把握し、日常生活の問題点や課題を見つけ、自ら考え行動できるようにする。	保健教育 保健管理	○丈夫な体をつくるために体育の授業を充実させる。 →年計の学習内容を、新型コロナウイルス感染症対策をして実施した。また、マラソン大会やなわとび検定等の学校行事と関連して授業を組み立てることもした。 ○七小タイムや昼休みにおける外遊びを奨励する。 →多くの児童が、外でドッチボール、サッカー、一輪車、遊具等で遊んでいた。	B	☆新型コロナウイルス感染症対策の共通理解をした上での体育の授業の実施を徹底する。まなびPCなど教材教具の工夫を行い、児童が意欲的に授業に取り組む工夫を行う。 市のエキスパートティーチャーを有効に活用する。 ☆遊具等の安全点検を徹底して、「なかよしタイム」における遊びの時間を充実させる。	・遊具等の点検などを地域の人と実施してはどうか。修繕の時は、手伝ってもらおうと思う。
	安全教育	○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。 ◇安全についての知識を高め危機回避能力を育成する。	危機管理 生活・交通・災害安全	○複数の職員で安全点検を毎月行い、必要に応じて速やかに修繕する。 →複数の職員で実施し、修繕、廃棄を行った。児童と一生に安全点検を行う要請があり実施した。 ○避難訓練(火災・地震・不審者等・引き渡し)を実施することで危険に対する意識を高めさせる。 →火災、地震の避難訓練、新型コロナウイルス感染症に対する引き渡し訓練を実施した。引き渡し訓練は、職員が話し合い感染対策を取り入れたものとなり成果が出た。不審者等の避難訓練は新型コロナウイルス感染症が広がりつつあったので実施できなかった。	B	☆職員で修繕できないものを市に要請して修繕、必要に応じて撤去してもらう。児童と一緒に安全点検を次年度も実施するように計画する。 ☆コロナ禍で実施できなかったが、次年度は消火訓練か地震車体験を入れる。保護者アンケートにもあったが、児童自身の危機意識の向上と判断力と実行力を育てる取組をする。	・危機管理は、内部職員の他に外部PTAにも立ち会ってもらい、危険箇所の確認や危険見積(どのくらい危険かを見積もる)を作成し、危機管理の意識を高め、先生方、PTAが共有できればと思います。 ・子供たちへ、消化器の使い方を入れてほしい。
	食に関する指導	○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。 ◇衛生的な食生活の習慣形成に努める。	給食管理 アレルギー	○正しい食事のマナーの習慣化に努める。 →コロナ禍での食事のマナーを意識して給食の時間を過ごさせることができた。アレルギーの児童は、自己管理できるように保護者と連携して取り組んできた。食に関する指導を外部講師を入れたりして全学年行い、これによって食に対して関心が高まった。	B	☆外部講師を活用して全学年において食に関する指導を継続し、バランスの良い食事が健康維持につながることを伝えていく。	・アレルギーを持っている子供に対して、学校での教職員の皆様と子供たちへの教育と、ご理解あり大変感謝しています。 ・食事のマナーとして、“フードロス”の教育も定期的に指導よろしく願いいたします。